

2026 年度 大学院秋季・春季入試（日本文学専攻）

博士課程（前期）

専門科目（古典文学_近現代文学_文学史）

【合否判定の方法】

《外国語科目》《専門科目》《面接》

提出書類および外国語試験、専門科目、面接の成績を総合的に評価し、合否を判定する。

【合否判定の基準】

提出書類および各試験の結果を総合的に評価し、研究計画の妥当性および博士課程における研究遂行能力を有しているかを判断する。

1 試験日 2026 年 2 月 13 日

2 科目：「古典文学」「近・現代文学」「文学史」（配点は選択制）

専門科目の試験は、「古典」「近・現代文学」「文学史」に分かれており、3 つのセッションのそれぞれに、100 点満点のうちどれほどの点を配分するかは受験生自身を選べるようになっている。

3 出題意図

【1】 古典文学

『沙石集』の説話を題材に、古文の語句・文法を正確に理解し、登場人物の言動とその理由を文脈に沿って読み取る力を問う。また、訴訟で自ら負けを認めた御家人が、結果として年貢の一部を免除される展開を踏まえ、「負けたればこそ勝ちたれ」の意味を説明できるかを確認する。さらに、説話の結びに示された「過ちを隠さず認めること」の教訓を、仏教的な比喻と結び付けて理解する力を問う。

【2】 近現代文学

問①Aは二葉亭四迷『浮雲』、Bは島崎藤村『破戒』、Cは芥川龍之介「河童」の、それぞれ冒頭部である。文学史で必ず論究される基本的な作品である。それらの知識の有無は近・現代文学に関する基本的知識を持っているかどうかを測る試金石になりうる。

問②作品を鑑賞・分析する能力を測る。また、文学的知識の確かさを測る。

【3】文学史

大学院日本文学専攻の授業を履修するに足る、日本文学史の基本的知識の確認を目的とする。

※著作権の関係で過去問題の掲載はできない。

以上